

## 令和4年度 野菜販売情勢について

令和4年3月9日（水）現在

### <全体>

3月上旬のひな祭りの需要期が終わり、量販店では本格的に春商材中心の売り場構成に切り替えが進んでいる。

### <きゅうり>

促成産地は今後も増量が見込まれるが、予め相場を下げていることで末端の荷動きは比較的良く、翌週前半までは保合相場様子見の販売となる見通し。

@A 1,600～

### <大玉トマト>

次週も春作の増量が進む見込み。売り場拡大も伴うため、下げずに保合の見通し。

@AM 1,300～

### <いちご>

荷動きが重い状況ではあるが、相場は保合となっている。

@2L 350～

### <にら>

相場は保合を見込むが、荷動き次第の販売となる。

気温の上昇によっては、在庫を滞留させないために相場を下げることもある。

@AL 70～50

### <春菊>

気温の上昇によっては、品質面の不安も出てきており荷動きの停滞を起こさないために、引き続き相場は弱保合の見通し。

@A 70～60

### <しいたけ>

気温の上昇によっては、需要減少の可能性が高く、相場は下げでの販売となる見通し。

@AL 120～110

### <ねぎ>

春作の増量に備える展開だが、末端からの引き合いを維持するために相場は保合の見通し。

@AL 1,500～